



早生温州ミカンの表面を
観察する植物防疫官

早生温州ミカン タイ向け3倍に

三重・JA伊勢 入念に検査

【三重・伊勢】JA伊勢は11月上旬、御浜町にある同JAの統一選果場で、タイ王国へ輸出する早生温州ミカンの輸出検査と出荷作

業を行った。熊野市と御浜町の園地で収穫した9トを輸出した。今

年は下旬にも2回目の検査を行う計画で、合計17トを見込む。昨年からの約3倍の輸出量となった。

検査は、県やJAの職員が立ち会い、農林水産省の植物防疫検査官2人が無作為に選んだ段ボール箱を開け、果実の表面を一つずつ観察し、病害虫や小さな傷などがないかを入念に確認した。

合格した早生温州ミカンのうち、8トは名古屋と東京から海路で、0・8トは航空便

でタイ王国へ輸出する。

販売単価は、国内相場の約3倍を見込んでいる。タイ国内の富裕層をターゲットに、大手百貨店や量販店、現地のインターネット通販で販売される。

同JA三重南紀経済センター営農柑橘(かんきつ)グループの和田慎一郎グループ長は「今年産は、秀品率が高く、甘いミカンに仕上がった。一粒でも多く食べて、喜んでもらいたい」と話した。